みどり

令和６年９月２日
調布市立緑ヶ丘小学校
校長　鳥居　圭
E-mail　midorigaoka-sho@chofu-schools.jp

オリンピックで思い出した、或る「なぞなぞ」

校長　鳥居　圭

今年の夏休みは、連日の猛暑及び８月中旬には大雨が続き、子供たちの熱中症や水の事故等を心配しましたが、大きな事故やけが等もなく、無事に２学期のスタートがきれた嬉しさを教職員一同、強く実感しているところです。

さて、7 月 26 日から 8 月 11 日まで、第 33 回オリンピック競技大会がフランス・パリを中心に開催されました。私をはじめ多くの方々が、世界の国と地域が参加した平和の祭典の盛り上がりに心躍らせたのではないかと思います。多くの日本人が金メダルを獲得しましたが、その中でもひときわ輝いていた選手の一人が、「金メダルに恋した中学 3 年生」と呼ばれたスケートボード（ストリート）の吉沢恋さんではなかったでしょうか。

まるで公園の階段についているような鉄製の手すりの上をスケートボードに乗って滑り降りながら様々な技を繰り出すこの競技。世界ランキング 1 位で出場を決めた吉沢選手は、「東京大会で西矢選手が金メダルを取ったときに決めた技を、当時小学生のときにすでに習得していた」という逸話を持つ中学生です。私としては、ありあまるほどの天賦の才能の持ち主がいるのだと勝手に想像していました。

先日、金メダル獲得後のテレビ番組で、小学校 5 年生当時の練習風景がドキュメント風に放映されていました。練習を見守る母親に「5 回までに成功させたら 1000 円ちょうだい」と言って取り組み始めた大技。5 回はおろか、何度やってみても全く成功となりません。ついには涙がこぼれてしまいます。しかし、2 日間練習し続け、ついに 158 度目の挑戦で成功することができました。（成功の場面の映像を撮影するために、2 日間カメラを回し続け、トライの回数を数えたテレビクルーの粘りもすごいと思ったのはここだけの話です。）一流といえども、また一流だからこそ、晴れやかで目立つオリンピックでの活躍の陰で、人知れず血のにじむような、泥臭い技術の向上のための努力の積み重ねがあるのだといえそうです。

この番組を観たとき、自分が学生の時分に流行したなぞなぞを思い出しました。「ある民族が水不足に悩まされたとき、雨乞いの踊りをすると、なぜか必ず雨が降ります。それはなぜでしょうか？」という問題です。

答えは結構あっさりしているのですが、「やり続けるということが成功につながる」という話なので、案外奥が深いなあと思った記憶があります。

誰しも、その大小を問わず夢や目標があると思います。それを達成するためには、雨乞いの踊りを踊る民族のように、雨が降るまで踊ろうという強い気持ちが必要な部分があるのかもしれません。

「成功とは成功するまでやり続けることで、失敗とは成功するまでやり続けないことだ」
―松下電器産業（現 Panasonic）の創業者、松下幸之助

「私たちの最大の弱点は、諦めることにある。成功するのに最も確実な方法は、常にもう 1 回だけ試してみることだ。」
―発明王　トーマス・アルバ・エジソン

さて、もうしばらくすると虫の声、空の色、花の香に忍び寄る季節を感じることができるようになってくることでしょう。自然界でもやがて実りの季節がやってきます。本校の教育活動もまた、子供たちに実りを実感できる充実した２学期となるよう、全教職員一丸となって日々の教育活動を展開していきます。